

ベナン共和国独立記念日

揺るぎない民主主義と底堅い経済の未来に向けて

駐日ベナン共和国特命全権大使

ゾマホン・D.C.・ルフィン

西アフリカの国、ベナン共和国は、本日、2015年8月1日、第55回目の独立記念日を迎えます。

私は、このめでたい日に、ベナン共和国大統領ヤイボニ閣下とベナン政府、またベナンの国民を代表して、天皇皇后両陛下、安倍晋三総理大臣閣下と日本政府、そして両国の親善のために日々貢献して下さっている多くの方々に、この喜びのメッセージをお伝えできずことを大変光栄に思っております。

本日ベナンにて執り行われる独立記念日式典には、諸外国からの来賓に交えて、はるばる日本より城内実外務副大臣をお迎えすることができました。このことはベナン政府およびベナン国民にとって大変喜ばしいことでした。

また、ベナンの国民は2011年3月11日、東日本大震災と津波に苦しんだ日本の皆さまを覚え、犠牲者の方達に対し、今も尚、哀悼の意を抱いておりますことをお伝えさせていただきます。

グッドガバナンス

私達は、ヤイボニ大統領率いる政府が、新興経済国入りを目指してベナンの経済を改革し、政治システムの近代化を図っていることを忘れてはならないと思います。

これらの改革や政策の達成に向けて、ベナンは、昨年6月、フランス、パリにて、経済円卓会議を開催しました。この会議ではベナンにおける様々な開発計画やプロジェクトの資金調達のため、官民、及び二国間、又は多国間のパートナー達により、ベナンに120億ドル（US）の支援が約束されました。

当面の私達の目標は、経済成長を2019年までに年率8%まで伸ばし、現在の投資率の19%を28%まで引き上げることです。

このような様々な計画支援のために招集されたパートナーの中でも、我が国ベナンは日本、そしてアジア・オセアニア地域の国々が頼れるパートナーであることを知っております。

確かに、1961年の外交関係樹立以来、日本とベナンの良好な協力関係は今日も持続してお

りますが、これは両国の最高責任者、ベナン共和国大統領ドクター・ヤイ・ボニ・トマと日本の安倍晋三首相との間で培われた建設的な政治対話をもたらした賜物と言えます。

このような改革及び政策により経済が一新されたことで確かな成果が出始めていることは大変喜ばしいことで、ベナンはアフリカにおける外国直接投資（FDI）の優先投資国の一つに数えられるようになりました。これらの改革の結果、ベナンはアフリカにおける平和で安定した民主主義の手本と見なされるようになりました。

ベナンはその歴史上一度も内戦を経験しておりませんが、これもひとえに日本を含む皆様のお蔭、と感謝いたしております。その業績が認められたことからヤイボニ大統領は、三年前（2012年1～12月）、アフリカの他の国家主席からアフリカ連合の議長に選任され、一年間の任務に当たられました。以来ヤイボニ大統領は、アフリカの平和と民主主義のさらなる強化を図っております。

それでも、アフリカ連合は、依然として国際社会の支援を必要としております。中でも日本は世界の民主主義と平和のために重要な役割を担う国です。

友好的な二国間関係

1961年以来、日本とベナン共和国は、非常に良い関係を構築し維持して参りました。そして今日、日本は、我が国の発展努力において無くてはならない大切なパートナーとなっております。

ヤイボニ大統領閣下は、今までにも数回日本に公式訪問をされています。最後に日本を訪れたのが2013年6月に開催されたアフリカ開発会議 TICAD V に参加する目的での来日でした。

駐日特命全権大使として私が目指していることは、日本とベナン共和国間のこのポジティブで互恵的な関係をさらに改善し、拡大していくことです。

近年では、ベナン新政権の高官数名が日本を訪れ、日本のカウンターパートと協議する機会や、反対に日本政府の首相を始めとする経験豊富な議員らがベナンやその周辺諸国を訪れる機会も与えられました。

このように日本の政府高官らは 順々にベナンを訪れ、ベナン共和国の開発ニーズに何が必要なのか？その適切な対応を策定するために、現地の状況に直に触れ、知識と理解を深めています。

私はこの場をお借りして、JICA（国際協力機構）を通じてもたらされた技術支援、JOCV（海外青年協力隊）の日本人ボランティアの働き、ベナンで唯一日本語を教える学校、“たけし日本語学校”（この学校は、アフリカで唯一日本語が無料で学べる学校で、語学のみならず、日本の文化や歴史も教えています）を支えるベナンのNGO“ベナンイフェ財団”の活動についても感謝申し上げたいと思います。

そのおかげで現在、農業、科学、医学、情報技術を専攻する多くのベナン人学生が日本各地の大学やその他の教育機関で学んでおります。

政府開発援助

無償または融資の形で受け取る日本の政府開発援助（ODA）はどちらも、ベナン経済インフラ、母子の保健衛生システム、教育施設整備、農業拡張事業に充てられ、ここ数年、ベナンにとっては無くてはならない大変重要なものとなっています。

日本のベナンに対する政府開発援助（ODA）は、過去数年間に渡る港湾事業においても、目に見える改善が効率的に為されるなど、社会経済インフラの基礎を築く上でも大変役に立っています。

ベナンは投資家を歓迎します

ベナン共和国の復興、その人口のニーズと願望を満たすための負担をすべて日本政府だけに負わせるわけにはいきません。

経団連、ジェトロ（独立行政法人日本貿易振興機構）、NPO や NGO 等の市民団体といった民間セクターにも、それぞれが持てる膨大な財、資源、専門知識を幅広くどんどんベナン市場に投資して頂きたいと思っております。

ベナンが消費者 3.5 億人を抱える ECOWAS（西アフリカ諸国経済共同体）の玄関口に位置していることを忘れないで頂きたいと思えます。

ベナンは、第一次産業の農業から第三次のサービス産業に至るすべての分野において、日本の投資家の出番を待っております。

貿易量を増やし、よりバランスの取れた経済関係に向けて共働していくことが、お互いの国の利益に繋がることは明白です。ベナンには、石油、綿花、金鉱、宝飾石、シアバター、パイナップル等々の資源が豊富にあります。

私が特に日本及びアジア太平洋諸国の民間セクターの投資家や起業家に対して申し上げたいことは、日本近隣の東南アジアの国々を見て欲しい、ということです。これらの国々は、アフリカのいまだ手付かずの未開発資源の投資機会を開発に繋がるものとして、積極的に、虎視眈々と狙っているのです。（ベナン共和国の土壌には様々な天然資源が埋もれています。）

ベナンの経済的な位置付けは、前述の ECOWAS（西アフリカ諸国経済共同体、消費者数 3.5 億人）の大規模市場加盟により強化されました。ベナンの経済的潜在力とその人的資源を考慮しますと、私は、日本とベナン両国間の協力は今後確実に強化され、多くの民間セクターの活動、とりわけ観光、科学技術、最先端情報通信技術、繊維、エネルギー、気候

変動といった分野に広がりを見せていくものと確信しています。そしてそこには利益を生む真の提携関係を結ぶ機会が提供されるのです。

精神的な繋がりがもたらすもの

ベナンと日本は文化的な価値観においても類似性が見られます。例えば宗教（ベナンのブーザー教と日本の神道）、言語（例えばベナンのヨルバ語やフォン語には日本語に似ている言葉が多く見られます）において興味深い類似点が見られます。

日本人観光客も大歓迎です。ベナン南部の都市では、ユネスコ世界遺産として登録され、奴隷貿易や植民地支配されていた頃の歴史を物語る史跡 "帰らずの門"、ベナン中部では有名なアボメイ王国の王宮やダッサズーメのカトリック巡礼地が見られます。さらにベナン北部では豊かな自然景観とサバンナの野生動物、そしてベナン人の温かいおもてなしが皆様を魅了することでしょう。

どうもありがとうございました。

神の祝福が皆様の上に豊かにありますように。

尚、ベナン大使館の公式ウェブサイトからもベナン大使館にアクセスできます。

www.beninembassy.jp

Email : abenintyo@beninembassy.jp